

学会レポート

2017 Community-Based Heritage Language Schools Conference: Promoting Collaboration among Educators, Families, and Researchers

ダグラス昌子

Chair, JHL SIG, American Association of Japanese Language Teachers
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校

2017年10月7日にワシントン D.C.で、American University, Center for Applied Linguistics, National Heritage Language Resource Center, TESOL Program 協賛のコミュニティーベースの継承語学校の学会が開かれました。その内容を手短にご報告します。詳しい内容は、学会のホームページ (<http://www.american.edu/cas/education/iie/2017-Community-Based-Heritage-Language-Schools-Conference-Schedule.cfm>) に掲載されていますのでそちらをご覧ください。

この学会は全米の継承語学校の教育者、保護者、そして研究者のコラボレーションを促進していくという目的で開催されました。アメリカの継承語は、メインストリームのアメリカ社会および公共教育に組み込まれることなく、個々に細々とコミュニティーの中で、あるいはコミュニティーもなく、保護者が個人の努力で作った学校・プログラムで教育が続いているという状態です。全米の継承語の数と、学校の数には明確に把握されていないのが現状で、この学会がまずは継承語を維持するための教育に携わる学校・プログラムおよびその関係者のネットワークを立ち上げるため、現在アメリカ手話を含めて44言語それぞれの連絡係を決め、情報の配信に努めています。また現在、コミュニティーベースの継承語のプログラムの所在を把握するためオンラインアンケートを実施しています。散在する継承語学校・プログラムをつなごうとするこの努力は、評価されていると思います。

今回この学会に参加して、感じたことは、継承語教育といっても、各言語が置かれている環境があまりにも違うということでした。中国語のように、Chinese School Association in the United States という全米の組織が確立している言語もあれば、フランス語のように、保護者不在で継承語教育に協力が得られずコミュニティーの教会や児童・生徒の後見人に呼びかけて協力を得なければいけない言語もありました。ファンディングをみても、アメリカ政府が指定しているクリティカルランゲージに入る継承語は、高校生のための夏の継承語コースや教師トレーニングに資金がでたり、フランス語はフランス政府の援助で French-American Cultural Exchange in Education and the Arts/French Cultural Services という組織の運営費の40%が賄われたりと、言語によってかなりの違いがあります。継承日本語はこのどこにも入らないなと思いながらの参加でした。

基調講演では、継承語としてのスペイン語、バイリンガル教育の中のスペイン語の研究者であるスタンフォード大学のバルデス教授が、継承語学校での教育とアイデンティティに焦点をあてお話をされました。継承語教育というと、ともすれば学習者の言語力を伸ばすことがカリキュラムの核になることが多いけれども、言語習得と密接に関係する学習者自身のアイデンティティの形成や変化とその要因、また継承語の教師の言語観やアイデンティティを理解し、教育の実践の中にもう一つの核として入れていくことが必要だというのが講演の骨子でした。

講演の詳しい内容は、スライドの PDF が、学会ホームページのプログラムのところにリンクされていますのでそちらをご参照ください。

本学会の内容をみると、多様な背景をもつ継承語の教育をになう学校・プログラムのための学会ですので、その目的も、直面する多種多様な問題のブレインストーミングと、アイデアをシェアするというもので、明確な解決策を提示するというものではありませんでした。プログラムにあるように、継承語教育の共通の課題・問題から、以下の 6 つトピックが選ばれ、午前、午後に分けて、パネルからの情報提示とそれをうけての参加者同士のラウンドテーブルでのディスカッションという内容でした。午前の部

- 継承語学校・プログラムの教員をつなぎとめる方法とトレーニング
- 継承語児童・生徒の学びの評価方法
- 継承語家庭のサポートとコミュニティへのかかわりを増やす方法

午後の部

- アドボカシー及び公共教育とのコラボレーション
- 継承語学習者の言語力と到達度を社会に認めてもらう方法
- プログラムへのファンディングについて

パネルの発表内容の PPT(PDF)は、基調講演と同じく学会プログラムにリンクされていますので詳しくはそちらをご覧ください。

先にも書きましたが、学会の主催者である National Coalition of Community-Based Heritage Language Schools は、全米の継承語学校・プログラムの所在を把握するため、アンケートを実施しています。現在まだ進行中で、継承日本語学校につきましても 16 校が回答を寄せてくださいましたが、より多くの学校・プログラムからの回答を待っているところです。そのため、このアンケートの結果につきましては、学会報告パート 2 として、後ほど、ご報告いたします。今回は、アンケートの回答の中間報告がありましたが、アンケート協力校の分布が東海岸と西海岸のみに集中し、その間が皆無でした。日本語も同じです。東海岸と西海岸以外の地域の学校・プログラムには連絡手段がないため、協力をお願いできないのが今の状態です。そこで、連絡網をできる限り広げていくため、現在メーリングリスト作成をはじめています。この報告を読まれた方のお住まいの地域で継承日本語学校、またはプログラムをご存じの方がいらっしゃいましたら、学校関係者に下記のアンケートのリンクをお渡しいただき、連絡のための情報をダグラスまでお送りいただけるようお願いしていただければ幸いです。

* アンケートへのリンク

<https://www.surveymonkey.com/r/HLProgram>

* 継承日本語学校・プログラムのメーリングリスト作成のための情報

送り先：ダグラス昌子 Masako.douglas@csulb.edu

お送りいただきたい情報：1. 学校名・プログラム名 2. 担当の方のお名前とメールアドレス
よろしく願いいたします。